

施策番号 3-1-2	施策名 公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展	基本目標	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり		
		政策名	いつまでも健康で安心して暮らせる保健医療環境づくり		
	主管課	公立芽室病院	課長名	事務長 西科 純	内線 531
	施策関係課				

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
地域における一定の急性期及び慢性期患者等に対応できる1.5次の医療提供の継続に向け、公立芽室病院の診療体制を維持し、その経営基盤の強化を進めます。		公立芽室病院	持続可能な診療機能体制の構築と経営基盤の安定化				質の高い医療の提供
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 患者数(外来)	病院決算状況	人/年	74,477	61,506	72,105	70,000	
② 患者数(訪問診療)	病院決算状況	人/年	50	168	264	150	
③							
④							
成果指標設定の考え方	①患者数(外来):“かかりつけ”の病院機能を伸長し、内科・総合診療科を中心に患者数増加を見込み設定 ②患者数(訪問診療):自宅での看取り希望のニーズ(70%)を踏まえつつ、当院体制を鑑み設定						

## 2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	1,802,972	1,716,934
人工数(業務量)	6.3674	7.3747

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	当院での不祥事問題等を含め、患者離れが急激に進んでいるものと想定する。
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①患者数(外来):病院改革プラン(第3次改訂)をもとに内科・総合診療科の常勤医師を安定的に確保し、経営コンサルの指導・助言に基づきながら推進すれば可能である。 ②患者数(訪問診療):病院改革プラン(第3次改訂)をもとに内科・総合診療科の常勤医師を安定的に確保し、地域連携室を中心に当院地域包括ケアシステムを構築し住民啓発を行っても不可能である。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	医療相談室運営事業 病院職員任免事務 医療機器等整備事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療相談室運営事業→患者・家族に向き合う件数の増は当院にとって収益増となるとともにサービス向上にもつながる。</li> <li>病院職員任免事務→職員採用について、特に新人看護師を倍増し採用するなど平均年齢を下げるとともに教育体制の強化図った。</li> <li>医療機器等整備事業→医療機器安全管理委員会を開催し必要最低限の機器導入に徹するとともに、院内環境整備及び機器更新等の迅速化を図り、患者サービスの向上に努めた。</li> </ul>		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

進捗結果	A	B	C	D	E
					○

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	さらに少子高齢化が急速に進む中であって、規模が大きく専門的な医療を提供する医療機関が帯広市に存在する中であって、当院の機能・分化を根拠にした体制基盤づくりは急務である。新型コロナウイルス感染拡大の状況が落ち着いた際には、国は病院の再編・統合問題を加速すると予測される。新院長のもと、町民に必要とされ信頼される病院を目指し、医療の質を向上させつつ、同時に財務を安定化する必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	2019年度に初開催した病院まつりは好評を博し、住民向けフォーラム・講座・研修会なども一定の参加者を見ることから町民の期待は大きいと捉えている。院内で起きた不祥事を含めて批判は極めて多く、信頼回復を果たす必要がある。議会厚生文教常任委員会に積極的に情報提供し、当院の取組に関しては概ね理解いただいていると解している。

**5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)**

本格的な病院経営改革に着手している、外来患者数において成果をみるまでに至っていない。しかしながら、経営コンサルタントや大学教授などからの助言をもとに病院経営の目指すべき方向性を確立し(慢性期・回復期への転換)と職員の意識改革を続けている。再編・統合の対象病院にリストアップされたものの早急に急性期の施設基準を返上し、町民にとってのかかりつけ病院としての機能整備に院内全体で取り組んでいる。先進自治体病院の視察調査を行い、病床稼働率を高位安定的に保つ重要性を見出した。今後は次の項目を強化する。①旭川医大との新たな連携事業(医師確保と当院地域包括ケアシステム確立) ②当院版KPI推進(各科目標管理) ③意思決定システムの確立(各種会議の改革) ④経営コンサルタントの積極的な活用による経営基盤改革(医業収益の向上及び職員の意識改革) ⑤地域連携室を中心とした他院・施設との連携 ⑥当院の機能・分化の推進(療養病棟開設(慢性期)とリハビリテーションの強化(回復期)) ⑦新たな病院改革プランの策定など。
--

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	病院改革プランの策定やフォーラム開催など様々な取組を行っているが、患者数が外来で大きく減少しており、後退したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果				
今後の取組に対する意見	実際に病院でどのような取組をしているか、町民への周知が必要である。アクションプランに基づき、継続して取り組んでもらいたい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	事業の内容を見ると、エネルギーを持って取り組んでいる。町民の出前講座のニーズの高さや、病院祭りの開催など、病院に対する想いがあるので、それに応えてほしいという希望を込めたE評価ということにしたい。	A	B	C	D	E
		進捗結果				
今後の取組に対する意見	今後の取組に期待したい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				